



原田 郁 Harada Iku
 1982年山形県生まれ、2005年東京造形大学絵画専攻領域卒業、07年同大学院美術専攻領域絵画科修了、07-11年同大学絵画専攻領域助手勤務。
 2003年第58回山形県総合美術展奨励賞(山形美術館)、10年群馬青年ビエンナーレ2010入選(群馬県立近代美術館)、GEISAI#14リキテックス賞(東京ビックサイト)受賞。
 10年「原田郁展」真下慶治記念美術館、「IKU HARADA SOLO EXHIBITION」ギャラリー TRINITY、11年「IKU HARADA SOLO EXHIBITION 2011」HARMAS GALLERY、13年「ひとつの窓と醒める庭」ART FRONT GALLERY、2015年「原田郁展『My Garden』」代官山蔦屋書店 Anjin。

長谷川由貴 Hasegawa Yuki
 1989年大阪府生まれ、2012年京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻卒業、14年同大学院修士課程美術研究科絵画専攻油画修了。
 2014年「ART OSAKA 2014 アートで目覚める vol.2」ホテル・グランヴィア大阪、15年「Children Repeat dawn」ギャラリーモーニング、「VOCA展2015」上野の森美術館、「Artist Workshop @KCUA The Hundred Steps 成果発表展 / SHOW CASE」@KCUA、16年「Veil of Species」ギャラリーモーニング。

鈴木紗也香 Suzuki Sayaka
 1988年ロンドン生まれ、2012年多摩美術大学絵画科油画専攻卒業、14年同大学院絵画科油画専攻修了。
 2010年「ワンダーシード」「トーキョーワンダーウォール」「Presentation & Exhibition」入選、11年「シェル美術賞」島敦彦審査員賞受賞、「第4回アーティクル賞」海老塚審査員賞受賞、「第26回ホルバインスカラシップ奨学生」、12年「トーキョーワンダーウォール」入選、13年「アーツチャレンジ」入選、VOCA賞受賞。2015年「ARKO」大原美術館、「鏡の中から、呼吸する」Another Function、16年「額縁の中を愛おしく」黄金町エリア Site-A ギャラリー、17年 BankArt レジデンス参加。

井上 絢子 Inoue Ayako
 1985年福岡生まれ。2007年佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程卒業。現在、福岡市在住。植栽された植物をモチーフに絵画を制作。
 個展：2005年「いわずについてもない」モマ・コンテンポラリー、09年「よそからきてどこへゆく」モマ・コンテンポラリー。
 グループ展：2006年「36のペインティング」北仲 WHITE301号室、07年「プロセス展」ギャラリーアートリエ、08年「Three Days Exhibition」ギャラリー憩い、09年「カンガルー日和」モマ・コンテンポラリー、10年「井上絢子と国本泰英」konya gallery、16年「黄金町バザール2016」黄金町高架下スタジオ site-A ギャラリー、「Local Prospects 2 アイデンティティ」三菱地所アルティウム。

芝田知佳 Shibata Chika
 1984年兵庫県たつの市生まれ。2005年国立学校法人高岡短期大学産業造形学科金属工芸コース卒業、女子美術大学芸術学部工芸学科染コース編入学。07年同大学芸術学部工芸学科染コース卒業、東京藝術大学美術研究科工芸専攻染織領域入学。09年同大学美術研究科工芸専攻染織領域修了。
 2003年兵庫県ゆずりは賞、龍野市民文化奨励賞受賞。
 2013年「YY/MM/dd」橋画廊、14年「La Mer hotel Ebi」ART OSAKA2014、「Holiday room Ebi」arinomama gallery HANARE、15年「夢展」橋画廊、11-13年、16年龍野アートプロジェクトに参加。

ART × Working Place アートのある働く環境
 設置場所：東京都内某工場
 アーティスト：井上絢子、芝田知佳、鈴木紗也香、長谷川由貴、原田郁
 ディレクション：特定非営利活動法人 アート&ソサイエティ研究センター
 協力：飯坂幸男、徳田慎一、千葉淳一

発行：2017年 撮影：六田春彦 デザイン：O design
 編集・製作・発行：特定非営利活動法人 アート&ソサイエティ研究センター
 〒110-0005 東京都台東区上野3-13-9 原田ビル201
 Email: info@art-society.com URL: http://www.art-society.com

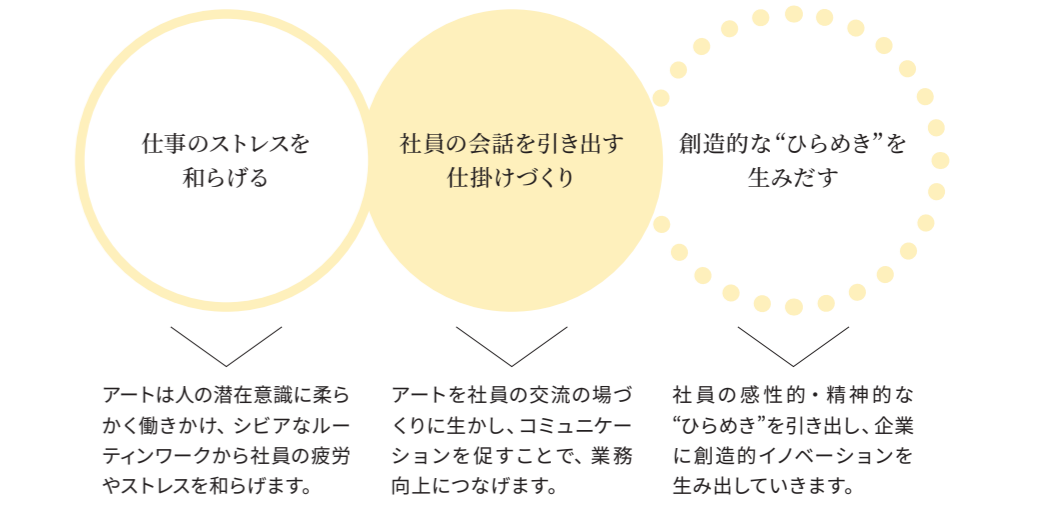


ART × Working Place

アートのある働く環境

5人の若手アーティストによる
 創造的空間づくり

オフィスの環境づくりに注目が集まっています。「社員同士のつながりをどうデザインするか」、「社員の心の健康づくりにいかに取り組むか」、「社員のアイデアや企画力をアップしたい」などの課題に対して、これまでになく解決策が模索されています。アート&ソサイエティ研究センターは、こうした企業の要望に、アートという手段を用いたソリューションを提供します。



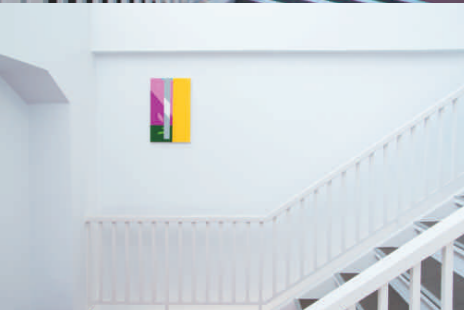
オフィス環境にアートを取り入れることで、企業全体の価値を向上させることを目指します。



ART × Working Place

社員の方々と共に協議を重ね、5人の若手アーティストを選定しました。

階段



《WHITECUBE - HOUSE PIECE 2017》
《HOUSE PIECE 2017 #001》《MOUNTAIN 2017 #001》
原田 郁

私はコンピューターの中に家や公園のある架空の世界を作り、その中に立って見える風景を描き続けています。そこは幼少の頃から見つけてきた生まれ故郷、山形の景観と過去から今に至る私の心的情景が交差した特別な居場所です。本作品では“産業がそのまわりの自然環境、暮らしと共生して発展してゆく”をキーワードに、自身の架空世界の中から3点のイメージを切り出してきました。現実と架空が交差する空間が表せればと思っています。

2017年/油彩、キャンバス/
WHITECUBE - HOUSE PIECE 2017: 130×162 cm、
HOUSE PIECE 2017 #001: 60.6×50 cm、
MOUNTAIN 2017 #001: 53×33.3 cm

食堂



《栄えの浜》
長谷川由貴

人が自然に対して抱く特別な感覚をテーマに作品を作っています。眩しい陽光の中で体がふわっと浮くような景色をイメージしながら描きました。浜辺に咲く架空の花たちは、「名誉・名声」や「豊かな実り」といった花言葉を持つ、ノウゼンカズラとタチアオイからヒントを得ています。この絵と時間を過ごされる皆様に、一層の栄えが訪れるようにとの思いを込めて制作しました。

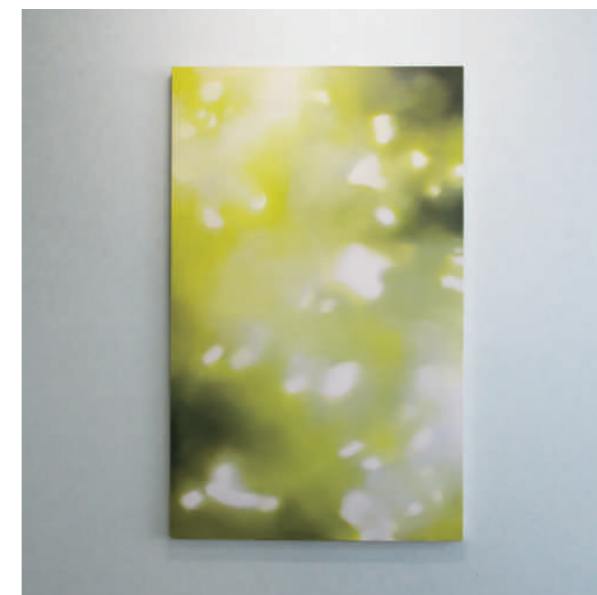
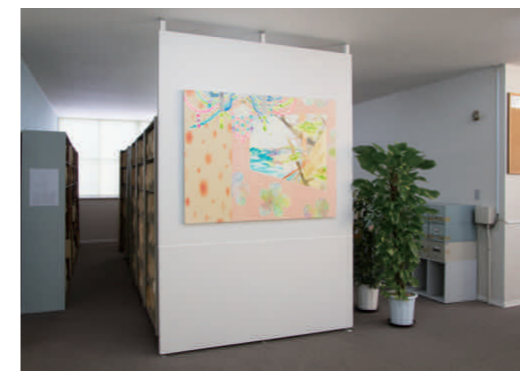
2017年/油彩、キャンバス/162×390 cm



《シャンデリアと2つの壁紙》
鈴木紗也香

私は室内風景を軸に「窓」を介して内と外、その境界線が交じり合う様を描いています。ポップなシャンデリア、カラフルな壁紙はその室内が子供部屋であることを示唆します。自我が形成されてゆく思春期を過ごす自分だけの特別な部屋。そこから見える風景はどのように変わっていくのでしょうか、また変わらないのでしょうか。

2010年/油彩、アクリル、ラメ、キャンバス/112×145 cm



《姿でもなく声でもなく》
井上絢子

驚くような速さで変わってゆく世の中のその出来事の中で、大きな歴史や強い力に埋もれてしまいそうな、個人の些細な感情やふとした風景があります。それを見落とさずに掬い上げるように絵を描きたいと思って、あたりまえにある目の前の風景を描いてきました。この作品を描いてから時が経ちましたが、大きな災害が頻発し、社会的にも不安定な状況にある今、その思いはより切実に、確かなものとなり、“あたりまえの日常の風景”が大切なものに思えます。

2010年/油彩、キャンバス/130.3×80.3 cm



会議室



《1914/2010/2014... コーヒーと花束と曲線の続き》
芝田知佳

さまざまな時間の記憶をテーマに、思い出のよすがとなるモチーフやそこから派生するイメージをモチーフとして画面を構成しています。大きな作品の場合でも、視線の移ろいによって、そのとき見る部分から何かを思い出したり考えたり、楽しめるように細部に描き込みを加えています。今回の作品は、遺伝子の構造を思わせる形がつながるような全体の形態がどこまでも広がり続ける巨大な存在を思わせ、見る人をゆったりと包み込みます。



2017年/デジタル・プリント
(原画: 麻布、顔料、型染め、ドローイング/100×155 cm)